

**令和3年度
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和3年12月
海老名市立海西中学校**

令和3年度

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

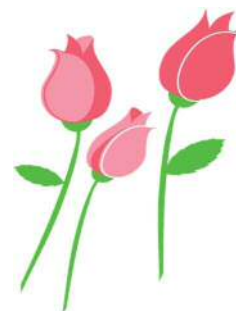
調査内容

- (1)教科に関する調査(国語, 算数・数学)
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査 (例)調査教科への興味・関心、読書時間、勉強時間の状況、ICT機器の使用状況、生活習慣 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

令和3年5月27日(木)



中学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・話合いの話題や方向を捉えることができるかどうかをみる。
- ・質問の意図を捉えることができるかどうかをみる。
- ・話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることができるかどうかをみる。
- ・書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかどうかをみる。
- ・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫をすることができるかどうかをみる。
- ・文脈の中における語句の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解しているかどうかをみる。
- ・登場人物の言動の意味を考え、内容を理解しているかどうかをみる。
- ・文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。
- ・事象や行為などを表す多様な語句について理解しているかどうかをみる。
- ・相手や場に応じて敬語を適切に使うことができるかどうかをみる。
- ・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 「話すこと・聞くこと」の領域における、話合いの話題や方向性を捉える能力に優れています。話合いの場面において話題や方向性を正確に捉え、発問者の質問意図についても、正しく捉えることができています。
- 「読むこと」の領域における、文章に表れているものの見方や考え方を捉える能力に優れています。文章に表れている登場人物のものの見方や考え方を捉え、それに対して自分の考えをもち、表現することができています。

◆課題のある点

- 「書くこと」の領域における、書いた文章を推敲する力に努力を要します。書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く力に課題が見られます。目的や意図に応じて、読みやすい文章にするための推敲する力をつけていく必要があると考えられます。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を推敲する必要があります。そのために表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを確かめながら文章を書くよう指導していきます。
- 生徒の学習活動の中で、自分が書いた文章を説明や具体例、描写などに着目して見直し、これらの表現が自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかについて検討する時間を設けます。その上で他者と書いた文章を互いに読み合い、文章の構成を工夫するよう促していきます。

中学校 数学

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・整式の加法と減法の計算ができるかどうかをみる。
- ・具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができるかどうかをみる。
- ・扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解しているかどうかをみる。
- ・関数の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・与えられたデータから中央値を求めることができるかどうかをみる。
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。
- ・数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができるかどうかをみる。
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
- ・ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・相対度数の必要性和意味を理解しているかどうかをみる。
- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。
- ・平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができるかどうかをみる。
- ・錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解しているかどうかをみる。
- ・ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- 具体的な場面で、一元一次方程式をつくることに優れています。
問題の中にある数量やその関係を捉え、一元一次方程式を作ることができています。
- 資料を整理した表から中央値を読み取ることに優れています。
データの特徴を捉えるために目的に応じた代表値を選択し、それを的確に求めることができています。

◆課題のある点

- データの特徴を捉えることはできていますが、その傾向を多面的・多角的に考察し判断して、数学的な表現を用いて説明することに課題が残ります。
- 実験で得られたデータを理想化したり単純化したりして、その特徴を的確にとらえ、数学を活用する方法を考え、説明することに課題が残ります。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 少人数授業を、習熟度別で行っています。習熟度別授業のあり方をさらに研究し、より効果的な授業が展開できるよう進めていきます。
- 計算技能を習得させることだけでなく、事象を数学的に解釈し、的確に捉え、事象を数学を用いて解決ができるように指導をするとともに、数学的な表現を用いて説明ができるように指導をしていきます。

生徒質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

○対話的で深い学びをしています。

「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問では、「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と答えた生徒の割合は 74.7%で、全国と比べて+12.7 ポイントと大きく上回っています。

コロナ禍という状況の中でも、主体的、対話的で深い学びを実現するために、「ペアワーク」や「グループワーク」を工夫しながら取り入れた成果が現れていると考えます。

◆本校の課題と思われるところ

○効果的な ICT 機器の活用を進めます。

「あなたは学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の生徒意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」の質問では、「ほぼ毎日」「週 1 回以上」と答えた生徒の割合は 19.7%で、全国と比べて-15.1 ポイント下回っています。

コロナ禍により、密を防ぐため PC 室が有効に使用できなかったということもありますが、一人一台端末(chrome book)が配備されましたので、有効活用しながら、インプットとアウトプットのバランスを意識した授業が進められるよう学校として取り組んでまいります。

生活について

◆本校のよかったところ

○自分のよさを意識して学校生活を送ることができています。

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は 84.1%で、全国と比べて+7.9 ポイント上回っています。

本校がこれまで取り組んできたさまざまな教育活動を通しての「人間関係作り」が基盤となり、生徒一人ひとりが自分のよさを意識することにつながっていると考えます。

◆本校の課題と思われるところ

○地域や社会への関心を高めていきましょう。

「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の質問では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は 29.1%で、全国と比べて-14.7 ポイント下回っています。

地域とともにある学校づくりを大切にしています。「特別活動」や「特別の教科道徳」、「総合的な学習の時間」などを通して、地域や社会とどのように関わっていくのかを主体的に考えられるよう努めてまいります。

今後の具体的な取組について

○学校スローガンである『信頼』と『海西中の心(「挨拶」「時間」「約束」「思いやり)」』を、あらゆる教育活動において意識し、大切にしながら今後も取り組んでまいります。

○授業のねらいを明確にし、RPDCA サイクルを意識した授業実践を行うことを通して、主体的、対話的で深い学びの実現を目指していきます。

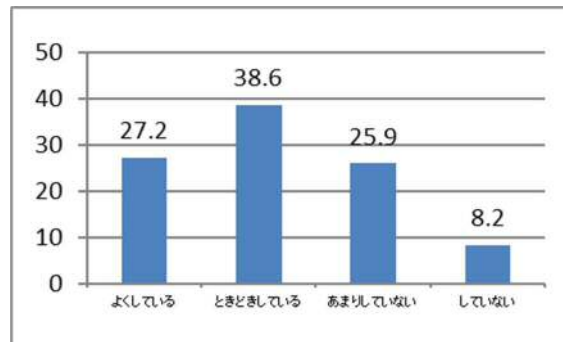
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の生徒質問紙の結果です。

1

計画的に学習を進めましょう。

「よくしている」と回答した人は27.2%で全国（19.4%）と比べて+7.8ポイント高くなっています。PDCA サイクルを意識してこれからも学習を進めましょう。

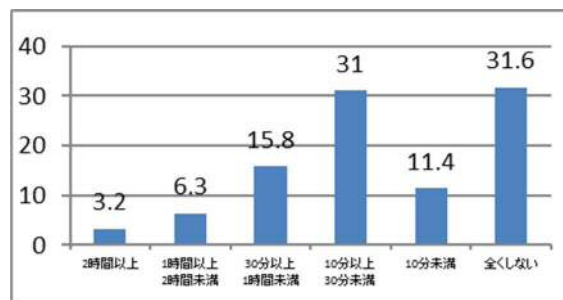


家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

2

読書に親しむ時間を作りましょう。

1時間以上読書をしている人は9.5%で全国（14.1%）と比べて-4.6ポイント低くなっています。ゆったりと読書に親しむ時間を確保しましょう。

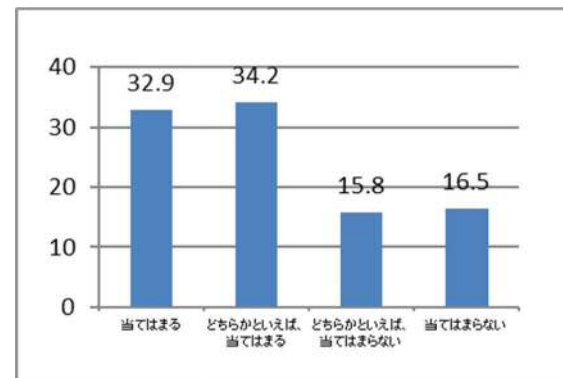


1日にどのくらい読書をしていますか

3

将来について話し合いましょう。

「当てはまる」と回答した人は32.9%で全国（40.5%）と比べて-7.6ポイント低くなっています。一年後の自分、三年後の自分、将来の自分はどうなっていたいか話し合ってみましょう。

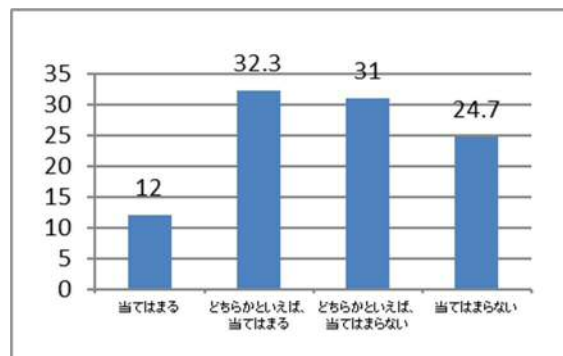


将来の夢や目標を持っていますか

4

一緒に参加できる行事を探しましょう。

「当てはまる」と回答した人は12%で、全国（16.3%）と比べて-4.3ポイント低くなっています。身近なことから参加できることはないか探してみましょう。



今住んでいる地域の行事に参加していますか

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【主体的・対話的で深い学び】

- ・学習した内容を見直し、次の学習につなげている
- ・自分の考えが伝わるように工夫して発表している
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。

【学級活動、道徳】

- ・学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決している
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合ったりしている

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日摂る
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る
- ・コンピュータやスマートフォン等でゲームをする時間が短い

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で学習計画を立てて学習をする
- ・家に本が多くある

【自尊感情・規範意識】

- ・自分には、よいところがあると思う
- ・自分でやると決めたことはやり遂げる

結果の公表にあたって

○公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

○公表することによって、保護者や市民の皆様にも市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

○「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係

